

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500072		
法人名	吉村商工 有限会社		
事業所名	グループホーム 風の丘		
所在地	宮崎県小林市南西方1992番地14		
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が企業理念を大切に思い理解することで、その方の意思を尊重し、その人らしく日常生活が送れるよう、一人ひとりの思いに答えられる環境づくりを行っている。また、十分なケアを行うため、安全で入居者が安心して暮らそう、協力医と連携を取り、看取りもさせて頂いております。最期までその方らしく過ごして頂けるよう、環境を整えながら、その時を迎えて頂けるよう配慮しています。四季を感じて頂けるよう、地域の方々から届いた食材を折々に絵手紙で表現し感触や味覚を楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員は企業理念を基に毎月の努力目標を掲げ、地域との繋がり、優しい介護、入居者中心の理念の実践に向けて取り組んでいる。職員は利用者の笑顔をつくるために季節に応じたイベントの企画などを行い日常のケアに取り組んでいる。近隣の方からの季節の届け物があると利用者と絵手紙を作成し施設に飾ったり、1年間の生活の様子をアルバムにし家族へ渡すなど関係継続の支援を行っている。利用者の自立支援に取り組み、理念の実践に向けた日々のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の中で、企業理念及び月目標の唱和を行い実践できるよう日々行っている。	会社の理念に沿った努力目標を毎月職員と話し合い作成している。理念、目標は毎朝唱和し日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前に比べ散歩などの機会が少なくなっている。なるべく、短時間でも屋外でのコミュニケーションが取れるよう工夫している。	「風の丘だより」を4か月に1回発行し区長を通じて回覧板で配布を行い地域との繋がりが継続するよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設時より「風の丘だより」を発行し、回覧板を通して地域の方へ風の丘を知って頂けるように発信を継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ対策にて中止を余儀なくされることもあったが、先日は屋外で開催することができ、委員の方に協力的な意見が大いにあり向上心が沸き今後のサービス向上に生かしている。	感染症で運営推進会議の開催が難しい状況の中、11月に屋外で開催するなど工夫している。運営推進会議の資料は家族には郵送して報告を行い、地域にも報告を行うなど、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対策について、運営推進会議の件等、市の担当者と連絡をとり常に相談をし指示を仰いでいる。その他の件でもすぐに相談できる関係が築けている。	運営推進会議のあり方、感染予防、利用者の認定調査の相談など随時連絡を取り、相談できる関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会は継続して行っており、今も入居者やご家族の気持ちになってケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会は常日頃行っている。また、連絡ノートも利用し職員への周知を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お世話をさせて頂く精神で援助する側、される側の心理状態が行動への対応に表れるとの理解力を高めることが大切である。言動、行動に対して、普段より職員間で確認を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の生活保護の方がいる。成年後見人制度の利用の活用までには至っていないが、今後も必要性を見極め市福祉課の担当者に相談しながら検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、家族や本人の不安や疑問、意向を確認しながら理解、納得して頂いた上で契約を行っている。法改定の際にも説明を行い理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は面会をお断りしていた期間が長かったが、日頃から面会時や電話の際に気軽に意見や要望を頂ける関係性が整っていたこともあり、ご家族より意見等を聞けることができています。	感染対策のため、面会が制限されているが、ラジオの持ち込み、届け物の相談があるなど家族の意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、問題に思っていることなど気軽に出して頂いている。必要に応じて代表者へ提案、質問を行うなど反映させている。	利用者の気分転換を図るために季節を感じるイベントの企画の提案があるなど、職員意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自分の家族を第一に考えるように」と代表者が常日頃より言っており、職員個別の状態を理解し、要望等を聞きながらその都度可能な範囲で対応し、個人個人が無理のないシフトで働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ハウ・レン・ソウを仕事の基本として情報共有したり、研修への参加も行っている。全員参加は難しいが、研修に参加できなかった職員は研修ノートを参照してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスでつくる連絡協議会の勉強会や研修会に参加しながら、他施設との意見交換や交流を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム見学時、ホームへの感想や不安なこと、本人や家族の希望などを聞きながら意見交換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後も家族の面会時において不安や要望がないか本人や家族の声が聞けるよう、家族へは面会時に時間を設け、話しやすい雰囲気づくりを心掛け信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞き、また入居前に関わりのあったサービス機関や医療機関と情報交換を行いながら、日常生活の中で必要な支援を見極め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々に対し、その人が好んで出来ることを見つけ出し無理にはなくやる気を出せる工夫を見出しながら生活を共にしている。本人に対し大切なあなたであることを知って頂くように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、面会時には一緒に過ごす時間を大切にし、家族の状況を確認しながら外出できる方は協力を頂いている。また、何気ない会話の中で不満、不安を探り、お互いに居心地の良い環境づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣ドライブへ行き、昨年も見学したことを思い出すなども聞かれる。道端に咲く花に感激し、仏様に飾りたい等、思い思いの会話で車中は賑やかである。	近隣へのドライブや行きつけのコーヒーを車の中で飲んだり、親戚が飼育している牛を見に行くなど馴染みの人や場との関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動を踏まえて難聴の方には職員が仲介に入り支援に努めている。また定期的に席替えを行い、利用者同士の関係性を配慮しながら環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際にはこれまでの情報提供を行っている。入院されている方へは、できるかぎり面会へ行き症状や状態を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人ひとりの表情を見て声掛けを行いスキンシップを図りながら思いや要望、意向を把握できるように努めている。不自由な事や問題点があれば検討している。家族へ話を聞きながら把握できるように努めている。	難聴の方には耳元で伝えたり、ジェスチャーで伝えるなど工夫を行い、一人ひとりに対応し表情等で意向をくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族よりこれまでの暮らしについて情報収集を行い、これまでの生活環境の把握に努めている。また、今まで利用された医療機関やサービス機関からも情報を提供して頂き、真に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居年数に応じ一人ひとりの過ごし方も変化している。日々の記録を細目に記入することで生活の変化もより分かるようになり、体調の変化等にすぐに気付くことができる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員が三味一体となり、要望や意見を聞き、より良い支援に向け前向きに検討し、定期的に評価を行いながら介護計画書の作成を行っている。	モニタリングは必要に応じて行い、3か月から6か月ごとに見直しを行っている。家族の意見は電話連絡や窓越しでの面会時に意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の様子を個別記録に記入しており、気付いた点については申し送りや業務日誌などを活用し職員間の情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の要望に合わせ、他事業所との連携を図りながらその時々での最善の方法で要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の本の貸し出し、絵手紙教室の活用も継続する中、用具と一緒に準備して下さる入居者も出て来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の医師との連携を密に取っており、入居者も医師の顔を見ると安堵される表情が見られるようになっている。必要に応じ医師より家族へ直接連絡もして下さっており、適切な医療を受けられる体制づくりが整っている。	協力医による往診や急変時による対応が出来ることから利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。また訪問看護も週2回来訪しておりアドバイスや意見をもらっている。24時間365日適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な体調の変化等、不安に思うことがある場合は、すぐに協力医の看護師へ連絡し相談することができ、入居者の変化にいち早く気付け、スムーズに受診など対応して頂けている。医療的な面でも不安なことでも相談にできる体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを利用し情報提供を行っている。入院中にもできる限り面会へ行き、病院関係者や家族より情報を収集できるようにしている。退院後も医療関係者との連絡を密に取り、情報交換を行いながら相談できる体制づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と看取りについて推進しており、入居時に本人や家族の終末期への意思確認書の整備を行っている。終末期に向けて医師や看護師と密に連携を図り本人や家族が安心し、穏やかに考えられる終末期に近づけるように体制を強化している。	入居前の相談時から看取りの説明をし入居時に同意書をとっており、その後も随時丁寧に話し合いを行い本人家族の意向を確認し意識を合わせている。必要に応じて利用者や家族と一緒に部屋で過ごす時間をつくるなど支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、全職員が把握できるようにしている。また、定期的な救急講習会を利用し、急変時や事故発生時の対応について確認ができる環境をつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の訓練は、告知せず行い、消火、防災など総合訓練として学ぶ機会が少ない為、今後増やして行きたい。また地域の方々への協力についても今以上に関係性が築けるように働きかけを継続して行っている。	夜間予告なしに防災訓練を実施している。非常時協力依頼に備え、運営推進委員の方々や近隣住民へホームのイベント案内など行い、地域の協力が得られるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の支援の中で一人ひとりの人格を尊重し、その人に応じた方言や馴染みの言葉を使い、また一人ひとりのプライバシーを損ねず、分かりやすい言葉かけを行うように対応している。	利用者の表情でくみ取ってさり気なく声掛けし、プライバシーを損ねないよう対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方には、耳元で短い言葉でゆっくり、はっきりした言葉かけを行い、反応を確認し意思疎通を図りながら本人の思いが聞けるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に決して無理強いをしないように寄り添うことを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、自身がおしゃれを意識するようになり表情も明るくなっている。施設へ定期的に理容師の来訪があり、施設にて髪を切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で野菜を育て、収穫した際には料理の添え物にしてアクセントにしたりと、自分たちで育てた野菜が食べられることにすごく喜ばれている。また食事前のテーブル拭きなどもできる方へはお願いし協力して頂いている。	利用者の楽しみの一つである食事は菜園で収穫したレタスやオクラなど利用して調理し、和やかで家庭的な雰囲気の中職員と一緒にテーブルを囲み、食事を楽しめるよう支援している。盛り付けや片付けなど利用者の力量に合わせて参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時と食事量もほぼ変わらず、体重維持ができています。水分量や食事量などの健康状態や3か月に1回の体重測定を記録し経過を観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「あいうべ」体操や口腔ケア時、舌のブラッシングも勤めている。歯磨きの拒否のある方にはタイミングをみて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されておられる方、確認が難しい方も排便チェック表を活用し排泄パターンを把握しながら声掛けを定期的に行い誘導している。できるだけトイレでの排泄ができるように下肢筋力低下を抑制できるように日々の生活の中で立ち上がり等へも積極的に行って頂けるよう、働きかけている。	排せつパターンを把握し、定期的な声掛けを誘導を行い、自立に向けた排せつ支援をしている。下肢筋力低下抑制のためトイレ排せつの働きかけを積極的にすすめている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに一人ひとりの1日の状態を確認している。日々の水分量が不足しないように気を付けながら水分の種類も気を使いながら1,500ml以上水分を摂って頂けるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の気持ちや体調を考慮し大切にしている。入浴拒否のある方にはタイミングをみて声を掛けたり、日時を変更したりしている。必要時は、半身浴も支援している。	入浴は利用者の体調やその時の気分に臨機応変に対応し清潔保持に努めている。入浴を拒む場合は相性の良い職員が声掛けしたり時間や曜日を変更して柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の仮眠を軽く取り、夜に備える。また、目や耳など音に馴染ませ安眠できるように日中の生活を考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セット時に二重チェックを行い、配薬の際にも入居者と一緒の名前、日付を声に出して確認している。また、入居者が飲み込みまで見守り確認を行っている。服薬の変更があった場合もその都度記録に残し職員間で確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの準備や片付けを一緒にされたり、洗濯物も名前が分かりやすいよう上向きに畳んで下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出を心掛けている。個々によってはコーヒーの好きな方もいるため、近隣の喫茶店へ出掛けることもある。好きな場所へ出掛けることで、希望を持ち生活機能を高めることにも繋がっている。	ホームの菜園観察やポピー・アジサイ・コスモス見学など戸外での楽しみの機会もあったが現在は感染対策のため窓外の景色を楽しむなどの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で各自の出納帳の管理を行っている。入居者個人で小口現金を所持されている方もいる。買い物に行った際には本人が支払いできるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している方が1名おられる。コロナで面会のできない期間はご家族へ今の様子を電話で報告したり、本人とも電話で話して頂けるように配慮を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消毒や換気、掃除など感染症予防に努めながら室温の調整などを行っている。共有空間には、手作りの物で季節感を感じて頂けるようにレクリエーションで作成したものを展示している。	共用空間は感染予防のため消毒や換気、室温に配慮している。利用者の作成した絵手紙などが飾られ、干し柿作りや七夕飾り作り、花植えなど季節に応じたレクリエーションを日常的に行うなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き入居者同士の関係性に配慮しながら座って頂いている。洗濯物を畳んだり、昼寝をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時だけでなく、継続的に本人、家族、職員で本人が自宅と同じように穏やかに過ごせる部屋作りを一緒に行っている。自宅より仏壇を持って来られた方へは、花を欠かす事のないよう気配りをしている。	居室には仏壇を持ち込んでいる利用者もあり自宅同様毎朝お供えを行っている。職員、家族で本人が居心地よく穏やかに過ごせるよう部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの状況に合わせている。動線上に物がないように配慮したり各箇所の手すりを設置したりとできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。また車椅子もスムーズに動かせるような環境づくりに努めている。		